

アレチウリってどんな植物？

- アレチウリはその名のとおりウリ科の一年生植物です。
- アレチウリは、北アメリカ原産の外来種です。日本に輸入された穀物に混じって渡来したといわれており、昭和27（1954）年ごろ、静岡県清水港で確認されたのが最初の生育例とされています。
- キュウリやスイカなど他のウリ科の植物と同様に長いツルを伸ばします。ツルは、長いものでは10m以上にもなります。この長いツルで他の植物に覆いかぶさり、その植物の成長を妨げます。
- アレチウリは、葉や茎などに細かいトゲをたくさんつけていますが、特に実には硬いトゲをつけます。（とても痛い）

アレチウリの一生

- アレチウリの芽生えは、5月頃から10月頃まで続きます。
花は、8月下旬頃から咲き始め、10月まで続きます。9月下旬には果実が熟し始めます。1つの果実の中には、種子が1個入っています。
- 一年生の植物なので冬には枯れてしましますが、アレチウリのツルは丈夫で、枯れてもからみ合ったまま残ります。1株で5,000個以上の種を付けることがあると報告されており、このうちの約7割が発芽すると考えられています。
- 特定外来生物
アレチウリは「外来生物法」により、平成18年2月から、農林業や生態系等に被害を及ぼす「特定外来生物」に指定されました。



【葉と花】 巻きひげがあります



【花】



【実】 とても痛いトゲがあります



【四十四田ダム】 一面アレチウリに覆われています



【安比高原】 アレチウリが木を覆っています

アレチウリによる被害

農業被害

- 宮城県の大豆畑では、アレチウリの発生し畑によっては収穫皆無となる甚大な被害を及ぼしています。
- 岩手県でも平成5年頃から、岩手県の中央部で、とうもろこし畑に発生し、とうもろこしの茎に巻き付き、収穫作業に支障を来しています。



ダイズを覆うアレチウリ

生態系被害

- 長野県千曲川では、アレチウリが大量にある場所では、他の植物がほとんど生育しないことが示されています。
- 四十四田ダムの上流ではアレチウリによって一面覆い尽くされています。在来の植物はアレチウリに覆われており、千曲川と同じ状況にあると推定されます。

アレチウリの駆除方法

癌（ガン）と同じ。早期発見、早期駆除！

■できるだけ小さいうちに抜き取る

- アレチウリのツルは長いものは10m以上に成長します。小さいうちに根元から抜き取ることが効率的です。

■種をつける前に抜き取る 9月上旬まで

- 1株あたり400個以上の種をつけ、発芽率は約7割と言われています。多いものでは1株あたり25,000個もの種をつけた事例も確認されています。

■1年に数回抜き取る 数年間継続する

- アレチウリの芽生えは5月～10月頃まで続きます。成長する前に、こまめに駆除することが効果的、効率的です。
- 数年間継続して抜き取る
- アレチウリの種は、全てが翌年に芽を出すわけではありません。2～3年後に発芽する事例も確認されており、継続的な駆除が必要です。

■注意事項

- アレチウリは特定外来生物に指定されています。生きたまま運搬することはできないので、駆除後は袋などに入れその場に置き、枯死してから運搬してください。